



立命館は
なぜスポーツを重視するか

2010年10月7日

立命館総長 川口清史

[スポーツは人を育てる]

教育機関としての立命館

- 持続的自己統制力
- 組織力
- 献身性
- チャレンジ精神
- 戦略的思考

【スポーツはコミュニティを活性化する】

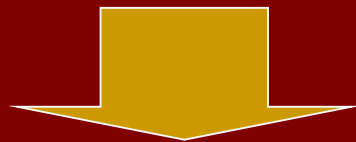
私学としての立命館

- とともに参加、応援することで築かれる絆
- 強いチーム、立派なチームの一員である誇り
- コミュニティの象徴

21世紀の新たな学問分野としての スポーツ

人材養成、研究機関としての立命館

健康な社会づくり



- 新たな人材需要(公的分野、民間)
- 指導者、マネージメント、ビジネス

[スポーツ科学の成立と展開]

- 生理学
- 脳科学
- 栄養学
- 心理学
- ロボット工学 等

【カレッジスポーツの抱える諸問題】

- 頻発する倫理、社会性の問題
- 勝利、技術優先
 - アスリート獲得競争
- 縦社会における自主性、自発性欠如
- 大学生にふさわしい学力形成の不足
 - ← 「人間を育てる」基本目標の欠如

[

]

立命館のスポーツ振興政策

[1. 正課での展開]

- 教養科目

 - スポーツ方法論 (受講生4400人、抽選)

- 学部・大学院・専攻での展開

 - ・スポーツ健康科学部 (220人)

 - ・大学院スポーツ科学研究科

 - (修士25人) 博士設置予定

 - ・産業社会学部スポーツ社会専攻

[2.課外スポーツ振興]

- 学生のスポーツ機会の提供
- 体育会、同好会承認、支援
 - ・施設、設備、指導者
 - ・重点強化クラブの設定
 - アメフト、ラグビー、男女陸上、野球、
女子柔道

[3.アスリートの積極的受け入れ]

- スポーツ選抜特別入試(231人)
 - ・多様な能力評価の一環、入学後の特別扱いはしない、多くの学生の中で育つ
 - ・学力問題
 - 単位取得義務、学習支援(アスリート入門)
 - ・評価
 - アスリートとしての成長、人間的成長、卒業後の進路

[3.アスリートの積極的受け入れ]

■ 一貫教育

- ・野球、女子陸上、ホッケー、ヨット等
- ・基本コンセプト、指導の一貫性の検討が必要

[4.指導体制]

- 重点強化クラブへの専任コーチ配置
 - ・理念、コンセプトの共有は図られているか
(立命館スポーツとは何か)
 - ・コーチの力量向上
 - ・実績評価
 - カレッジスポーツ研究所への期待
 - スポーツ科学との連携
 - 専門的客観的評価
- OB指導者への支援

[5.財政の考え方]

- OB依存型 (伝統大規模私学)
- 一点集中型 (新興私学)

立命館は校友の援助を受けつつ、大学として責任を負っていく

- 学友会予算、大学予算、父母後援会
- 寄付政策、国家プロジェクト獲得

[

むすび

]

- 総長の下での新たな展開へ